

刈谷豊田総合病院

【地域において今後担うべき役割、今後持つべき病床機能】（P13、P14）

1) 地域医療構想に基づく医療体制の整備

○地域医療構想に基づく高度急性期・急性期病床の整備

- ・地域で必要とされる高度急性期・急性期の必要病床数を確保し、計画的に整備する
- ・地域の診療所からの紹介患者と救急患者を常時に受入可能な体制を整える
- ・急性期治療の完了した患者の退院・転院を促進することで、急性期患者用の病床を確保する

2) 急性期病院としての医療技術レベルの向上

○急性期患者に対応する診療体制の整備

- ・専用性の高いがん放射線治療機導入し、がん放射線治療実績を向上させる
- ・化療センター活用により、がん外来化学療法の治療実績を向上させる
- ・心筋梗塞患者に対応する体制を整え、治療実績を向上させる
- ・脳卒中患者の診療体制を整備し、治療実績を向上させる

3) 高齢者増加に対応した在宅医療の整備

○関係機関と連携した訪問看護ステーションの利用者数の増加

- ・地域の行政機関、診療所やケアマネージャーとの連携を強化することにより訪問看護ステーションの利用者数を増加させる

4) 健康を維持する予防医療の拡充

○企業健診の新規獲得活動の強化と新メニュー提案による健診利用者数の増加

- ・未契約企業の洗出しと営業活動により、契約企業を増加させる
- ・契約健保組合に対し、魅力ある新メニューを提案し、新規利用者を発掘する

【今後の方針】（P15）

	現在 (平成29年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	45		45
急性期	585		585
回復期	42	→	42
慢性期	0		0
休床	38		0

【診療科の見直し】（P16）

(1)現在(平成29年) 20科

内科、神経内科、精神科、循環器科、小児科、
外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、
皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、
眼科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科

(2)将来(平成37年) 34科

【維持】 17科

神経内科、精神科、小児科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、
皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、麻酔科、
リハビリテーション科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科

【変更】 13科

総合内科、消化器内科、呼吸器・アレルギー内科、腎臓内科、
内分泌・糖尿病内科、循環器内科、血液内科、腫瘍内科、感染症内科、
消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、

【新設】 4科

救急科、緩和ケア科、形成外科、臨床検査科

内科、外科を専門分野単位に細分化し、循環器科を循環器内科に名称変更
緩和ケア科、形成外科、救急科、臨床検査科を新設

【その他の数値目標】（P17）

(1)医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 90%以上
- ・ 手術件数： 現在件数の維持
- ・ 紹介率： 地域医療支援病院要件65%
- ・ 逆紹介率： 地域医療支援病院要件40%以上

(2)経営に関する項目

- ・ 人件費率： 現状維持